

南房総地域里山のミニ貯水池整備による建設需要の創出

木更津高専 学生員 西川 和希

木更津高専 正会員 佐藤 恒明

1. はじめに

地球シミュレーターによる予測によると 2030 年の気温 35 度以上の猛暑日は、今より約 50%増加すると公表されており、地球温暖化に伴う渇水と地下水位の低下に影響を及ぼすことが危惧されている。一方、館山自動車道が 2007 年 7 月 4 日に全線開通し、南房総への交通のアクセスは飛躍的に良くなった。南房総には、美しい海岸線と比較的緩やかな丘陵地帯があり、ロングウォーキングに適した地域といえる。この豊かな資源とミニ貯水池を結びつけて、地球温暖化渇水対策に寄与できる新しい地域活性化モデルを作り出したい。

本研究では、南房総地域にミニ貯水池を新設し新たな散策コースを提案する。既存の宿泊施設を散策コースでつなぐことにより、豊かな自然を生かした参加体験型の滞在観光地域へ発展できる。植生可能な水路用コンクリート二次製品の開発や散策に適した舗装材料の開発など、建設需要の創出をねらった地域活性化モデルとする。

2. 調査結果

ミニ貯水池候補の規模

	貯水池数	周長 (m)	面積 (m ²)	容量 (m ³)
平久里川流域	①	400	7,000	14,000
	②	530	15,000	30,000
	③	400	10,000	20,000
	④	315	7,900	15,800
加茂川流域	①	440	9,600	19,200
	②	325	6,000	12,000
夷隅川流域	①	600	9,600	19,200
	②	560	7,600	15,200
	③	400	15,000	30,000
	④	400	8,400	16,800
	⑤	290	4,200	8,400
湊川流域	①	435	9,000	18,000
	②	330	10,450	20,900
平均		417	9,212	18,423
Σ	13 箇所	5,425	119,750	239,500

キーワード：ミニ貯水池群，ロング・ウォーキング，民間資本の導入

連絡先：〒292-0041 木更津市清見台東 2-11-1 TEL 0438-30-4158 FAX 0438-98-5717

3. 構想概要

平久里川流域では旧三芳村を中心に散策コースを提案する。三芳村は、千葉県の南部、安房郡のほぼ中央に位置し、冬暖かく夏涼しい避寒避暑の適地であり、自然を大きく残した純農村である。その中央に位置する道の駅という人の集まる休憩所を起点に調査、検討を行った。

ここには農畜産物の直売と情報・休憩コーナーがあり、農家直送の新鮮な農産物をはじめ、加工品や乳製品が多く売られている。また、料理体験や農業体験も行っており、年間約20万人が訪れる休憩所である。

全体の散策コースの流れは、道の駅を起点に各貯水池や誘致所を巡る全長約28kmの散策コースとする。

参加体験型の滞在観光地域とするために、普通の散策コースだけではなく、地域の宿泊施設や農園と協力して、訪問した人が散策して自然を見るとともに普段できないことを体験できる地域としていく。宿泊施設と協力し体験宿泊プラン、また、農園の人と協力して果物狩りや花摘み、田植え体験、また地域の人々と伝統工芸体験や郷土料理体験等、様々な体験型を提案していく。地域住民の協力を得て行っていくことで、地域活性化に繋げていく。

この地域活性化構想は、南房総に限らず他の同様な地域にも適用できると考えられる。地域活性化における新たなビジネスモデルであると言える。

謝 辞 ご助言をいただいた CCI 事務局の小坂大輔氏に厚くお礼を申し上げます。

平久里川流域散策コースの提案

